

飼料情勢

1. とうもろこしのシカゴ定期は、3月には360セント／ブッシェル前後で推移していたが、4月に入りブラジル産の早魃による減産見通しから上昇し、5月10日発表の米国農務省需給見通しで輸出および国内需要が上方修正され期末在庫が減少したことから堅調な展開が続き、現在は420セント／ブッシェル台で推移している。
2. 大豆粕のシカゴ定期は、3月には300ドル／トン前後で推移していたが、4月に入りアルゼンチン産大豆の収穫時の長雨による作柄悪化見通しから急騰した。その後も、アルゼンチン産の減産により米国産に輸出需要が集中する見込みから高騰が続き、5月10日発表の米国農務省需給見通しで需要増により期末在庫が減少したことからさらに上昇し、現在は450ドル／トン台で推移している。
3. 米国ガルフ・日本間のパナマックス型海上運賃は、2月には25ドル／トン前後で推移していたが、中国むけ南米産大豆などの輸送需要が増加したこと、原油相場が上昇したことなどから堅調な展開となり、現在は30ドル／トン前後で推移している。
4. 外国為替は、3月下旬には113円前後であったが、4月に入り米国の利上げ観測が後退したことにより一時105円台まで円高がすすんだ。その後、5月に良好な米国経済指標により米利上げ期待が高まると111円台まで円安となったが、6月3日に発表された米雇用統計が予想を下回り、利上げ観測が後退したことから円高となり、現在は107円前後となっている。

